

第6学年社会科学学習指導案

1. 単元名

「私たちの学校と戦争」

2. 単元の目標

(1) 社会科としての目標

○アジア・太平洋に広がって行われた戦争について調べ、戦争拡大の経緯や国民生活の様子、国内外の被害などについて理解を深めることができる。

○世田谷小学校の戦争中の子どもたちの様子を調べることを通して、自分が感じていた「戦争のおそろしさ」を問い直すことができる。

○「戦争のおそろしさ」について、図書資料や世田谷小学校に伝わる文化財や戦争資料を調べ、考えたことを適切な方法で表現することができる

(2) 汎用的スキル

- ・「戦争とは何か」を問い続け、それを明らかにするために何を調べればよいかを考えることができる。(問題解決力)
- ・立場の違う人の意見を聞き、自分の意見を客観的・論理的に見つめ直し、よりよく考え直すことができる。(批判的思考力)

(3) 態度価値

- ・同じ問いに対して、自分とは違う考えを持つ人がいることを理解し、考えが違う人と学び合うことにより、自分の考えを深めることができることを実感することができる。(他者に対する受容・共感・敬意)

- ・「戦争のおそろしさ」を問い続け、多様な意見が尊重される社会をめざそうとする。(よりよい社会への意識)

3. 児童の実態

1945年の終戦から70年以上経過した。時代の経過とともに子どもたちの周りに戦争を体験した方が少なくなっている。その一方で、海外に目を向けてみるとイラク、シリア、パキスタン等で戦争が現在も続いている。ニュースでは、兵士が銃をもち、戦闘機がミサイルを発射している場面が報道されている。ニュースや新聞に興味をもっている子どもたちが多く、それらの映像を見ているであろう。また、「広島に原爆が落ちた」「戦争では多くの人々が亡くなった」ということを知っている子どもも多い。日清戦争、日露戦争を学習している際、「戦争は、多くの命を失う悲惨なもの。繰り返してはいけない」と述べている子どもがいた。おそらく「二度と戦争を起こしてはいけない」「平和な世の中を築いていきたい」という思いをもっているだろう。・・・確かにそうである。でも、この「二度と繰り返してはいけない」という言葉にどれだけの「重み」や「思い」があるか。その自分自身の言葉を確認めたり、問い直したりする子どもを育てていきたい。

4. 単元について

①教科から見た特性

戦争のおそろしさは何だろうか。大好きな家族の命が奪われること。たくさんの建物が焼き払われること。命や物が失われるということは子どもたちも想像できるであろう。戦争の恐ろしさは命や物が失われるだけではない。「戦争反対」と思っているにも自由に発言することができない、疎開先から親に悲しいという思いを伝えられないというように、「心の自由」がなくなることもあると考える。この「心の自由」を考えることにより、子どもは「戦争を二度と繰り返してはいけない」という自分の言葉を問い直すことができるのではないかと考える。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点から見た特性

戦後70年以上が経ち、戦争を経験した人から直接話を聞くことが出来なくなっている。当時のポスター、残された絵画、日記などの資料を組み合わせ、戦争について考えていく必要がある。自分の考えの根拠をはっきりさせるために、どのようなことを調べ、資料を集めて仲間と検討していくことが、問題解決力や批判的思考力を育むことに有効であると考え。また、今回は、「心の自由」について考え、平和な社会であるためにも多様な意見や自由に考えることができることの大切さを考える。そのことを通して、他者に対する受容・共感・敬意、よりよい社会への意識を育むことができることと考える。

5. 単元計画と資質能力を育成する主な手立て（全 18 時間 本時 11/18 時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第 1 次 (5 時間)	・「戦争は何か？」という題で、今考えていることをノートに書き、話し合う。 ・15 年間続いた戦争について年表にまとめ、気になっていることを調べる。	○問題解決力	○解決したい、よりよくしたいという場の設定→「戦争とは何か」を問い続ける学習展開
第 2 次 (11 時間)	・学校の戦時中の動きを前時までに作った年表に追記し、世田谷小学校の歴史を調べる ・学童疎開出発当日に出された「学年便り」を読み、疎開が行われた理由や、送り出す家族の様子を理解する ・「学童疎開絵巻」「疎開中の作文」をよみ、先輩たちの姿から「疎開にある不自由さ」を考える。 ・疎開された先輩から話を聞き、自分が考えてきた疎開の不自由さ、戦争の恐ろしさを問い直す	○問題解決力 ○批判的思考力 ○他者に対する受容・共感・敬意	○事前知識をもたせる→自分の考えの根拠をはっきりさせるための調べ活動 ○身近なテーマの設定→戦争を自分の学校の歴史、先輩の姿から追究する。 ○他者との学び合いの設定→学習感想を読み合う場の設定
第 3 次 (2 時間)	・1 時間目に書いた「戦争とは何か？」という問いに対して、自分の考えを書き、全体で話し合う。 ・今回学んだことをもとに、平和で民主的な社会をつくるための社会のあり方を考える。	○批判的思考力 ○よりよい社会への意識	○可視化ツールの設定→自分の戦争に対する考えがどのように変わってきたのかを整理させる。

6. 本時の学習指導

(1) 本時のねらい

先輩が書き残した疎開の作文を基に、学童疎開にある「不自由さ」について考えることができる。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て
導入 12 分	①仲間の学習感想を読み、同じ考えの仲間や違う視点で考えている仲間の意見を読み、自分の考えを見直す。 ・食べ物が多分になかったということを書いている仲間がいるな。物が少ない不自由さあるかな。 ・家族に会えた時の喜びから、家族に自由に会えないということも「不自由さ」になるのかな。	◇全員の前時の学習感想配布し、自分とは異なった視点で考えている仲間の意見に気づかせ、自分の考えを見直すように促す。(他者との学び合いの設定:「他者に対する受容・共感・敬意」「批判的思考力」)
展開 28 分	②疎開の作文を基に、学童疎開にある「不自由さ」について全員で話し合う。 ・面会にお母さんが来てくれた日、本当に嬉しそうだった。普段の生活では「お母さんに会いたい」という気持ちを表せない。 ・手紙を自由に書けないということもあった。自由に書いたり言ったりできなかったのも「不自由さ」になるんじゃないかな。 ・薪拾いに全員で行っていた。「嫌だ」というわがままは許されなかったんじゃないかな。集団で行動しなくてはいけないのも「不自由さ」だね。千倉の臨海学校は、自分で考えて過ごせる時間もあるよね。 ・いつ終わるかかわからないというのも「不自由さ」というか、苦しさかな。	○どの資料から考えたのかをはっきりさせていく。場合によっては、絵巻や文集に戻って全員で確認する。(事前知識を持たせる:「問題解決力」) ○「物の不自由さ」と「心の不自由さ」の意見を分けて板書し、「不自由さ」にもいろいろあることに気づかせていく。(可視化ツール:「批判的思考力」) ○今行われている臨海学校と比べることにより、自分たちの今の生活と学童疎開の「不自由さ」の違いをはっきりさせていく。(いろいろな視点から考える必要のあるテーマの設定:批判的思考力)
結末 5 分	③学習感想をまとめる。 ・物が少ないだけでなく、考えや思いなど心の面の不自由さがあったのだと思う。 ・みんなに合わせて行動しなければならぬ時間が多かったのは、きっと苦しかったと思う。	○仲間の発言を受けて、自分の考えを見直していくとともに、これからの学習の進め方も考えるように促す。(振り返る場の設定:「他者に対する受容・共感・敬意」) ●学童疎開にある「不自由さ」を様々な視点から考えることができたか。(発言・ノート)